

(3) 公共交通

1) 鉄道路線

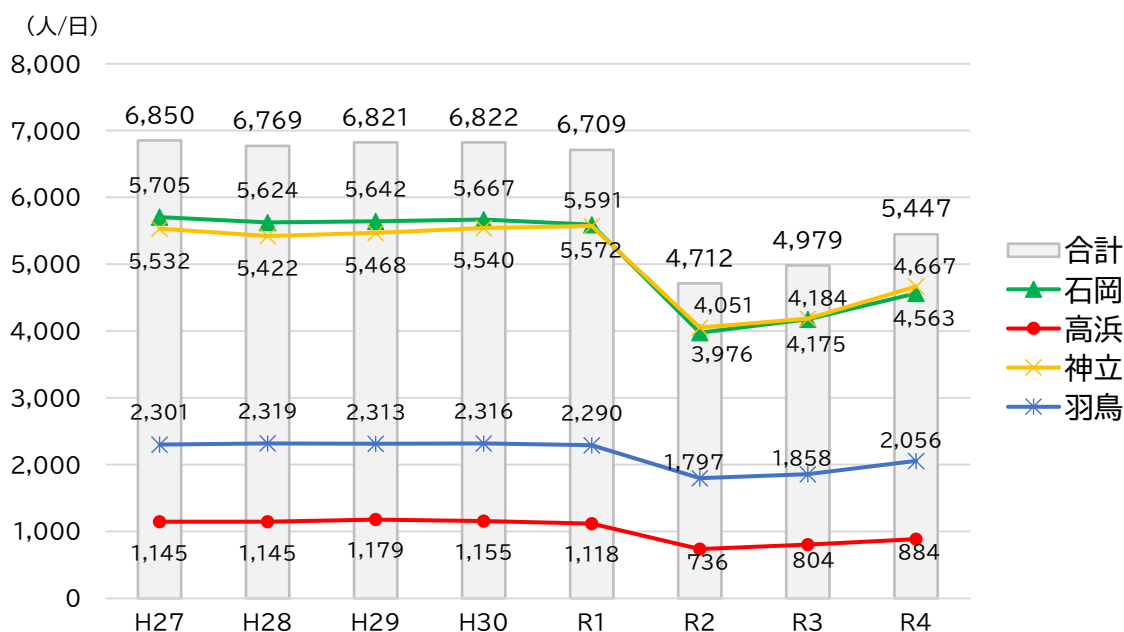
本市の東部をJR常磐線が南北に縦断しており、市内には石岡駅と高浜駅が立地しているほか、周辺には羽鳥駅と神立駅が立地しています。

各駅の乗車人数の推移をみると、石岡駅、高浜駅、羽鳥駅、神立駅は2015（平成27）年から2019（令和元）年にかけて一定水準で推移していましたが、2020（令和2）年以降については、新型コロナウイルスの影響により、乗車人数は大幅な減少がみられます。

表：各駅の乗車人数の推移（単位：人）

年	石岡		高浜		神立		羽鳥	
	乗車人員	増減比 (2015年比)	乗車人員	増減比 (2015年比)	乗車人員	増減比 (2015年比)	乗車人員	増減比 (2015年比)
H27	5,705	100%	1,145	100%	5,532	100%	2,301	100%
H28	5,624	99%	1,145	100%	5,422	98%	2,319	101%
H29	5,642	99%	1,179	103%	5,468	99%	2,313	101%
H30	5,667	99%	1,155	101%	5,540	100%	2,316	101%
R1	5,591	98%	1,118	98%	5,572	101%	2,290	100%
R2	3,976	70%	736	64%	4,051	73%	1,797	78%
R3	4,175	73%	804	70%	4,184	76%	1,858	81%
R4	4,563	80%	884	77%	4,667	84%	2,056	89%

出典：JR 東日本 HP



図：各駅の乗車人数の推移（※合計は石岡+高浜）

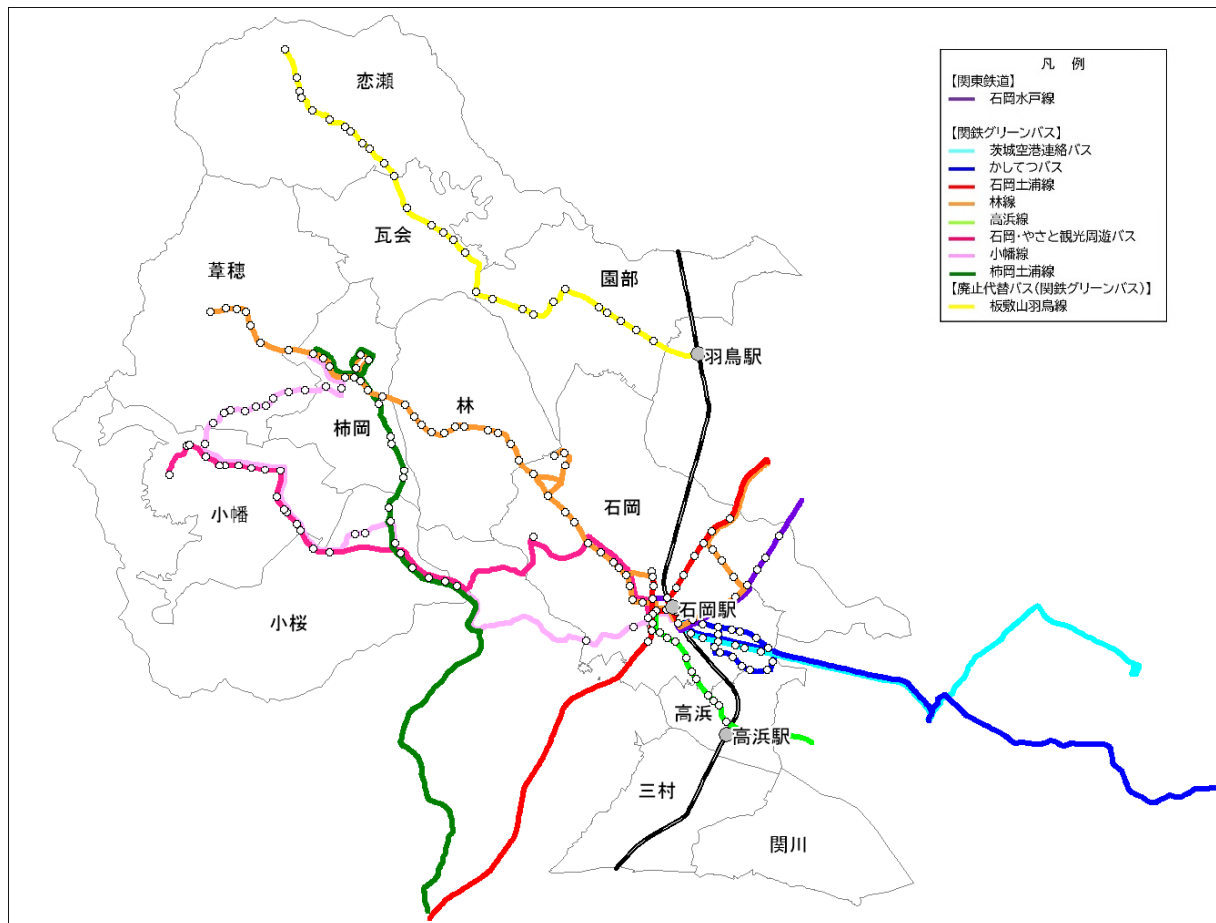
出典：JR 東日本 HP

2) バス路線

本市では、関東鉄道と関鉄グリーンバスによるバス路線が運行しており、石岡駅を中心として放射状に延びています。

2007（平成19）年3月に廃線となった鹿島鉄道跡地を利用したかしてつバス（BRT※）の運行本数が最も多く、45本/日以上が運行がされており、次いで石岡市街地と柿岡市街地を結ぶバス路線が多く運行されています。

※BRT：Bus Rapid Transitの略称でバス高速輸送システムのこと。



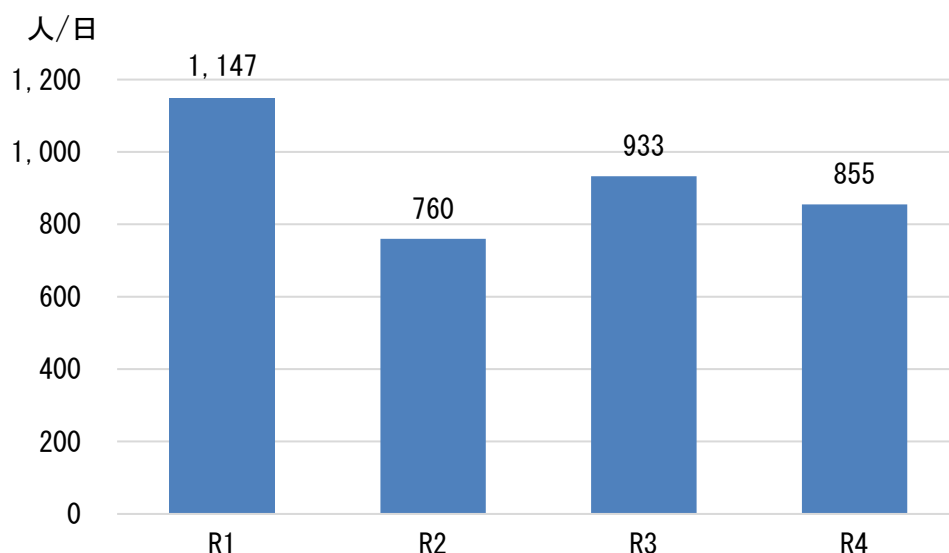
図：バス路線図

出典：国土数値情報を基に作成

3) かしてつバス

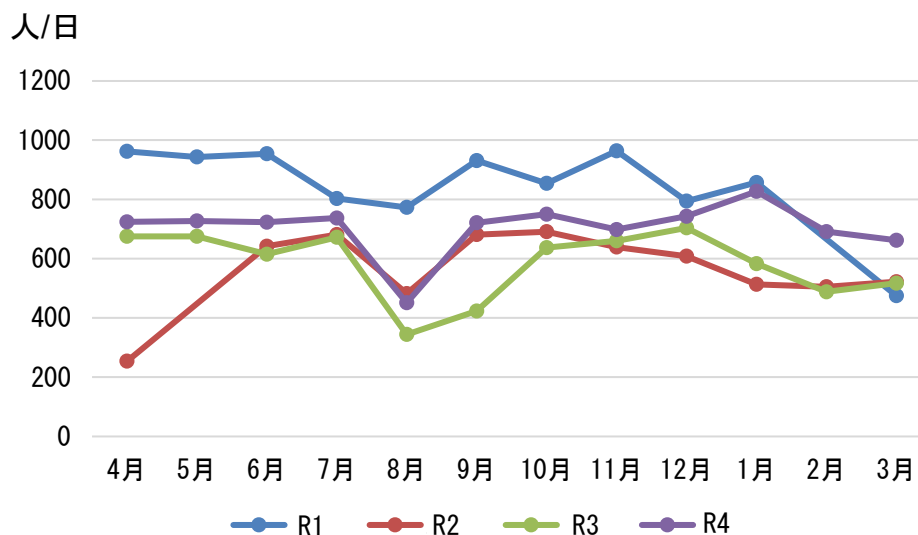
石岡駅から四箇村駅までの区間をバス専用道として整備し、地方型BRTとして2012（平成24）年から本格運行を実施しており、石岡駅を起点として新鉾田駅や茨城空港を結ぶルートが運行されています。

平日の1日平均利用者の年別の推移をみると、2019（令和元）年の1,147人をピークに、新型コロナウイルスの影響により微減傾向となっています。また、月別の利用者数の推移をみると、4月、9月、10月は多く、8月は少ない傾向がみられます。



図：かしてつバス1日平均利用者の年別推移（平日）

出典：石岡市資料



図：かしてつバス月別利用者数

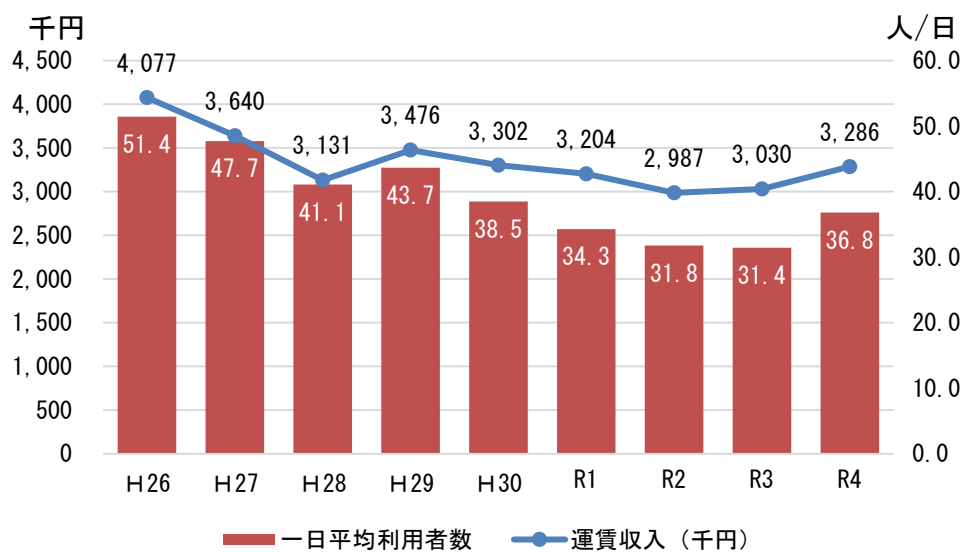
出典：石岡市資料

4) 代替バス

地域住民の交通利便性や、大增地区から恋瀬小学校までの通学手段を確保するため、1995（平成7）年度から関鉄グリーンバスによる代替バスの運行（板敷山～羽鳥駅）が行われています。

1日当たりの利用者数及び年度別運賃収入は、2014（平成26）年度以降減少傾向にあり、さらに2021（令和3）年までは新型コロナウイルスの影響により大幅な減少傾向となりました。

2022（令和4）年度については、運行ルートの見直しや新型コロナウイルスが収束した影響で回復傾向にあります。



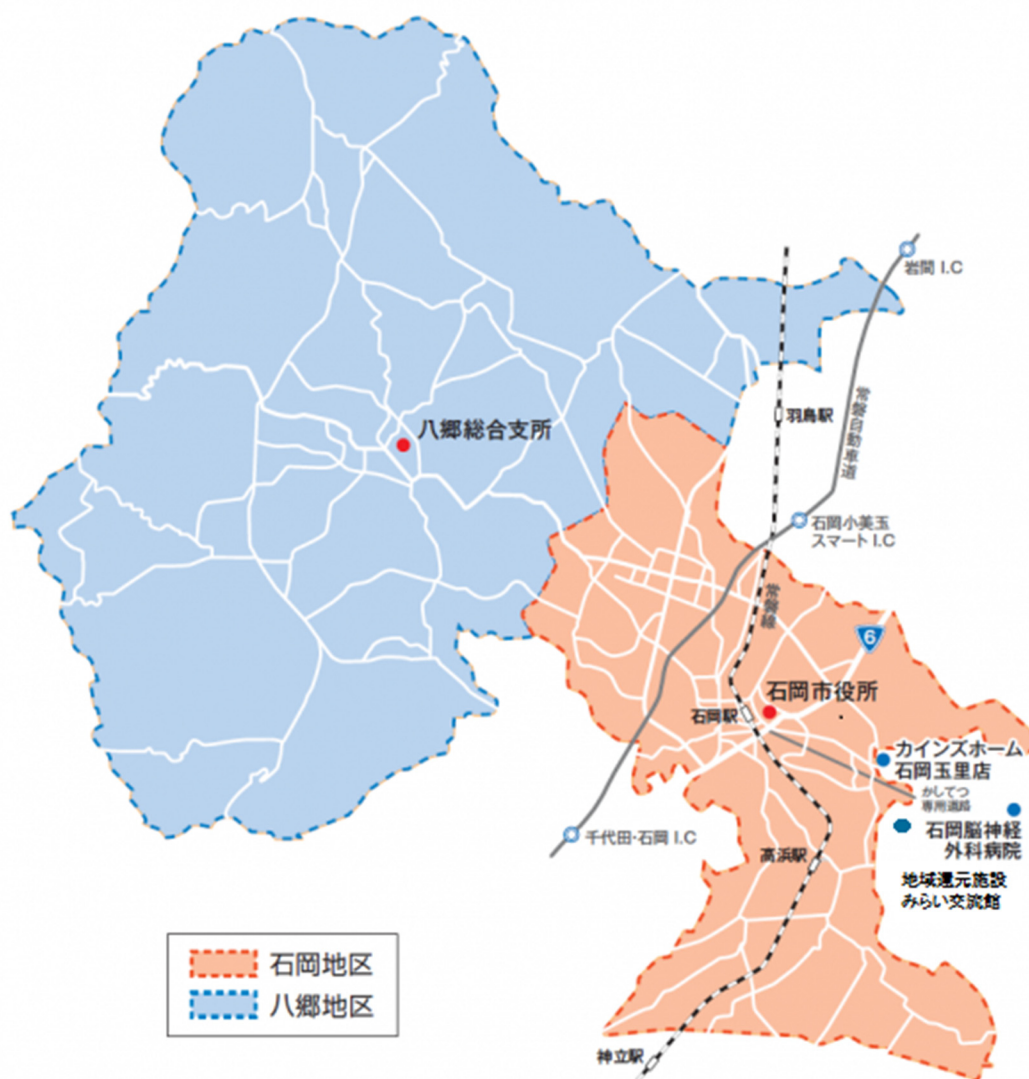
図：代替バス1日当たりの利用者数と年度別運賃収入

出典：石岡市資料

5) 乗合いタクシー

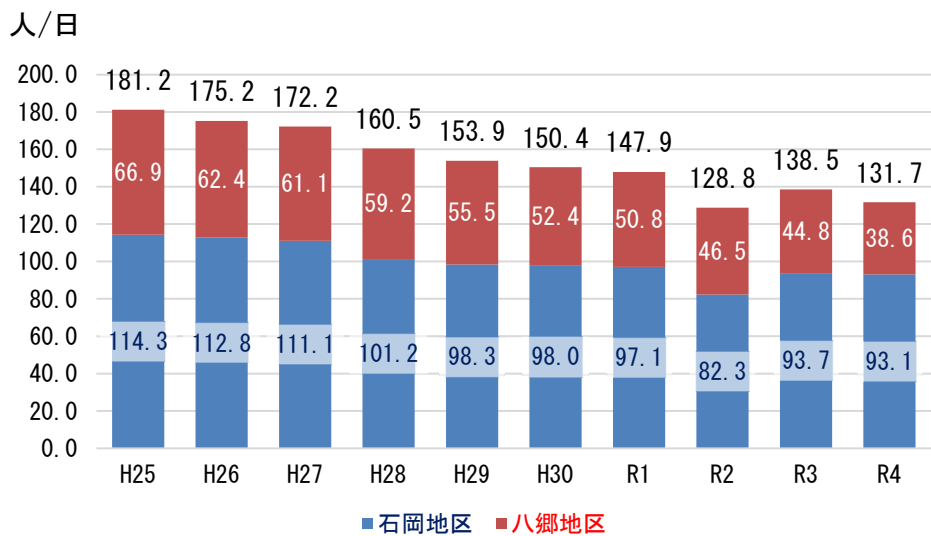
市内の公共交通空白地域の解消及び自力で移動することが困難な人の移動手段の確保を図りつつ、地域の活性化及び福祉の向上を図ることを目的として、2006（平成18）年から乗合いタクシーの運行が開始されており、運行区域は石岡市全域となっています。

1日当たりの乗車人数の推移と乗合いタクシー運賃収入をみると、2013（平成25）年以降減少傾向にあります。



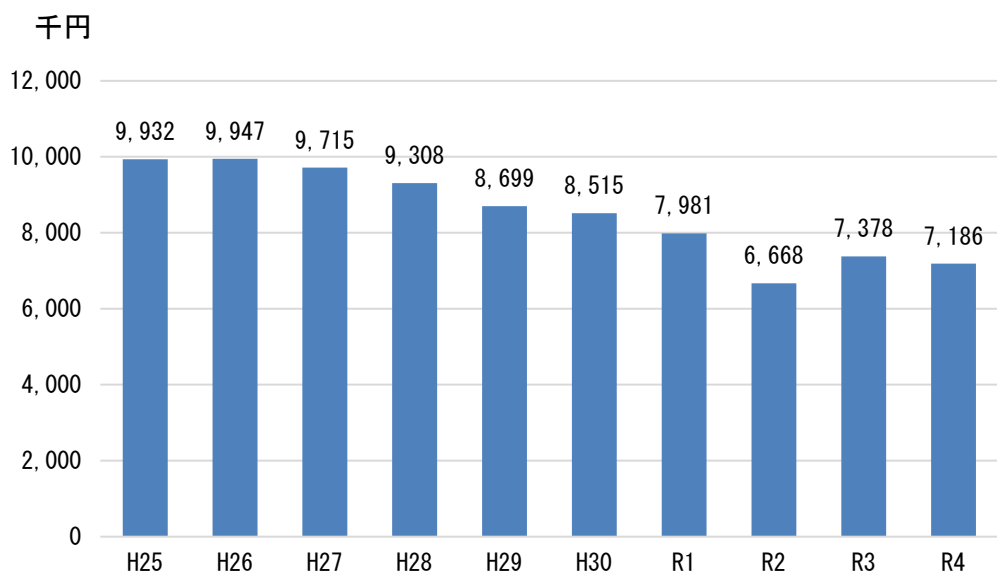
図：乗合いタクシー運行区域図

出典：石岡市社会福祉協議会 HP



図：乗合いタクシー 1日当たりの乗車人数

出典：石岡市資料



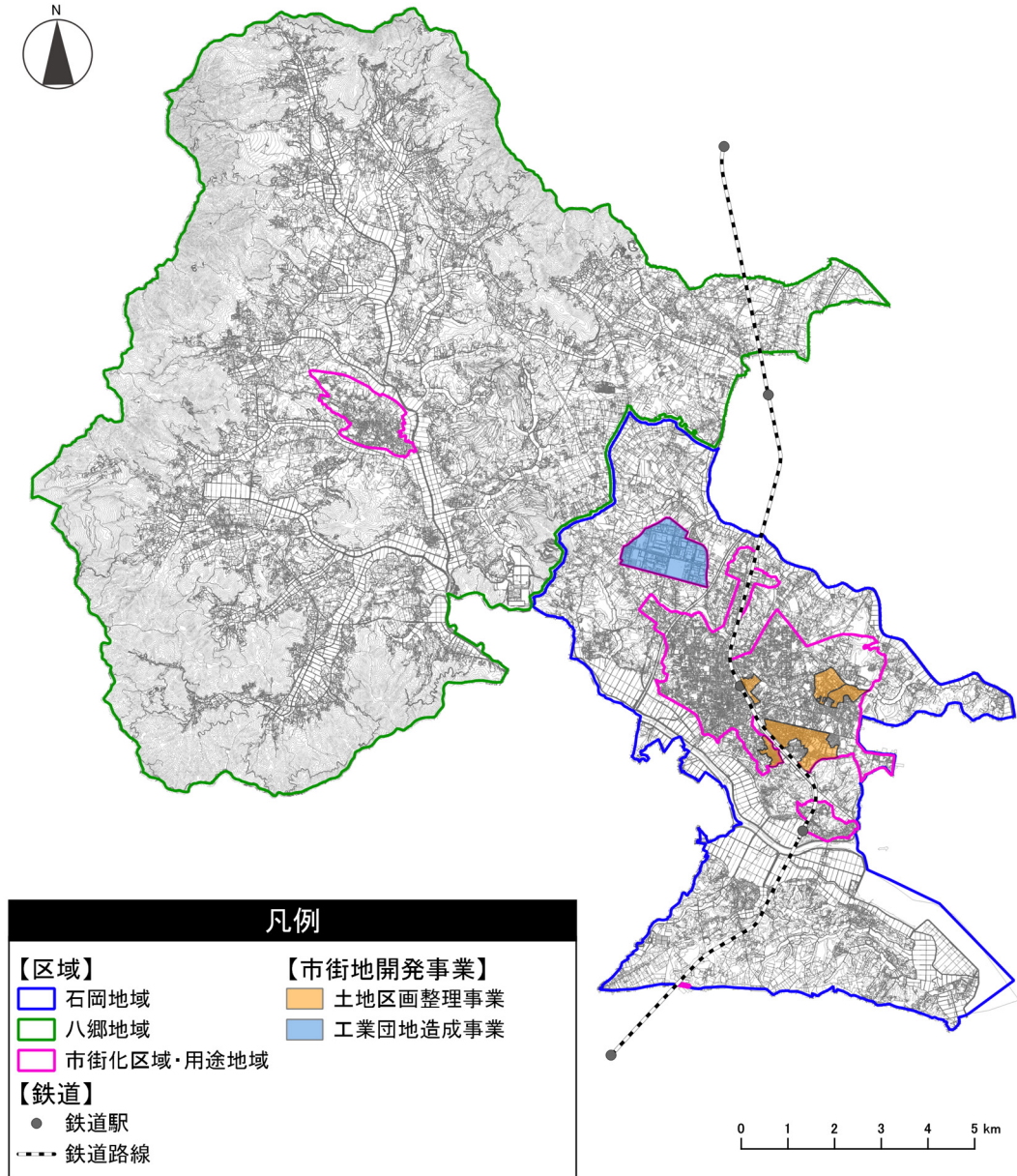
図：乗合いタクシー運賃収入

出典：石岡市資料

(4) 市街地整備

1) 市街地開発事業

本市における市街地開発事業は合計で6箇所となっています。そのうち、柏原地区の1事業のみが「工業団地造成事業」、それ以外は全て「土地区画整理事業」となっており、事業は全て完了しています。



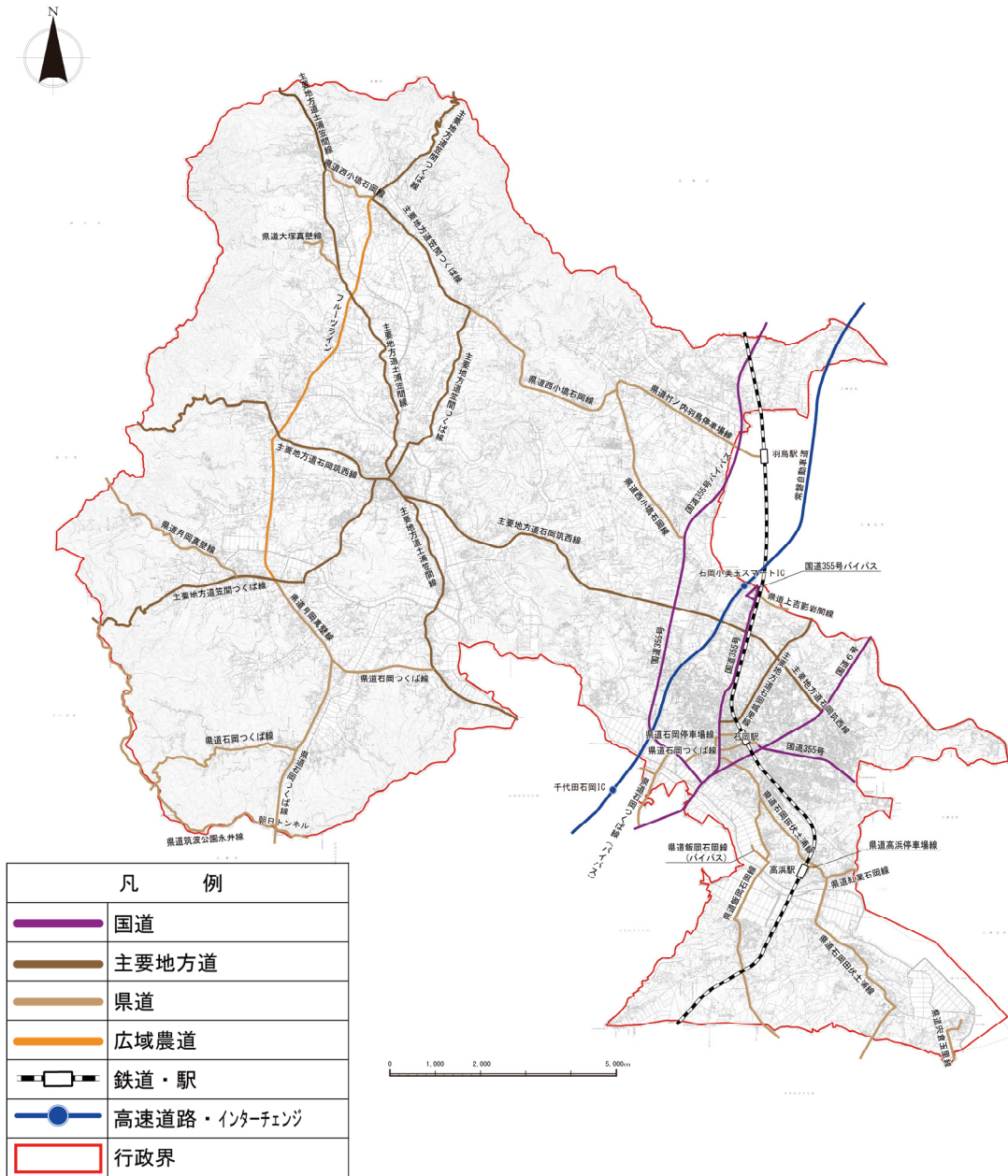
図：市街地開発事業位置図

出典：2020 (R2) 年度 都市計画基礎調査

2) 道路状況

市内の主な道路網は、国道6号、国道355号、主要地方道石岡筑西線、主要地方道笠間つくば線、広域農道フルーツライン等によって構成されています。

都市計画道路は、石岡地域で24路線、八郷地域で2路線、全体で26路線が計画決定され、順次整備が進められています。



図：道路現況図

出典：石岡市資料

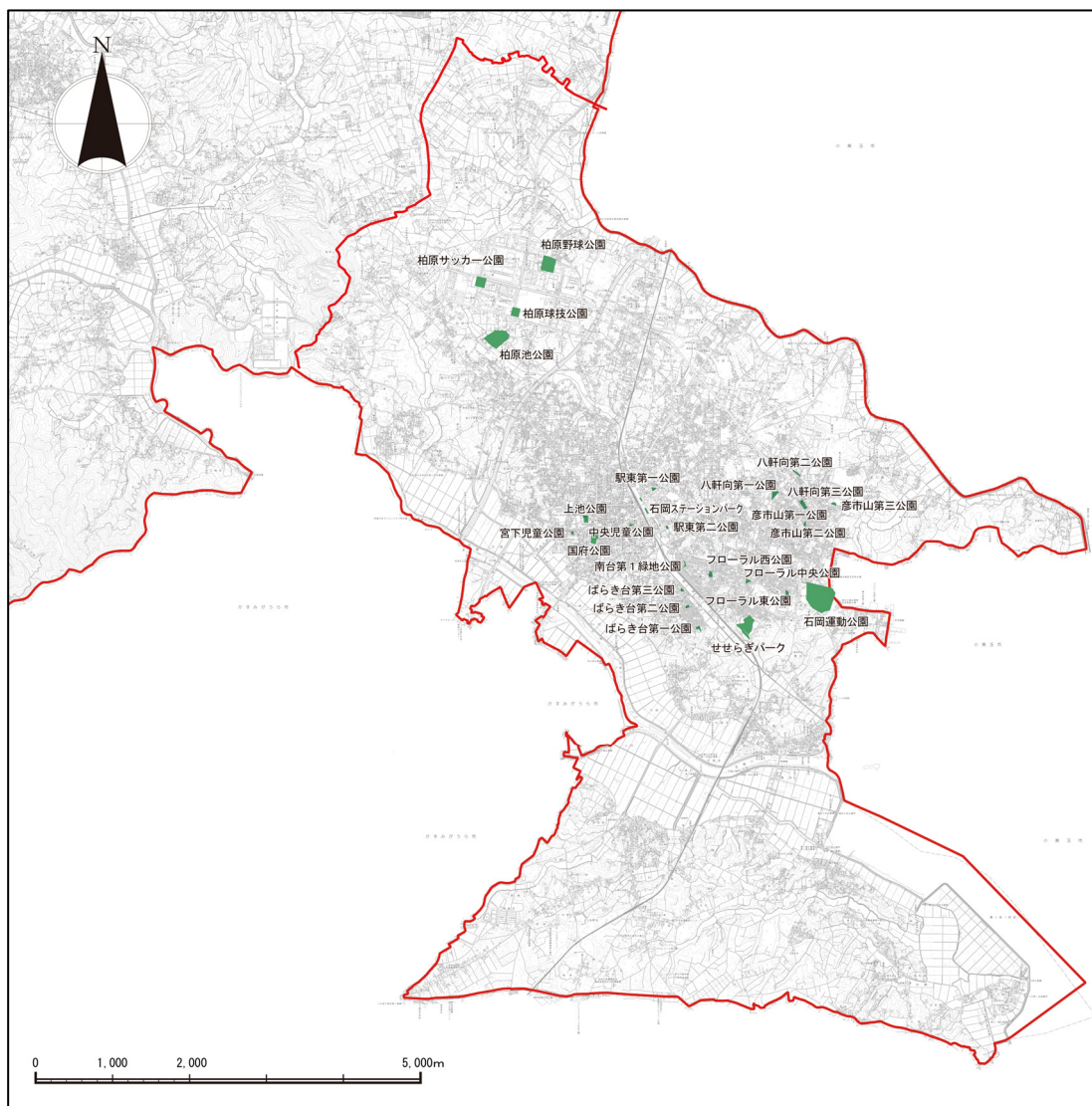
3) 公園の整備状況

本市の都市公園は26箇所、その他の公園が13箇所となっており、そのほとんどが整備済みとなっています。

表：公園の整備状況（単位：箇所・ha）

都市計画公園								その他の公園		計	
街区公園		近隣公園		運動公園		特殊公園		施設数	面積	施設数	面積
施設数	面積	施設数	面積	施設数	面積	施設数	面積				
19	4.77	4	8.86	2	12.94	1	4.68	13	6.39	39	37.64

出典：2022 (R4) 年 統計いしおか



図：都市公園位置図

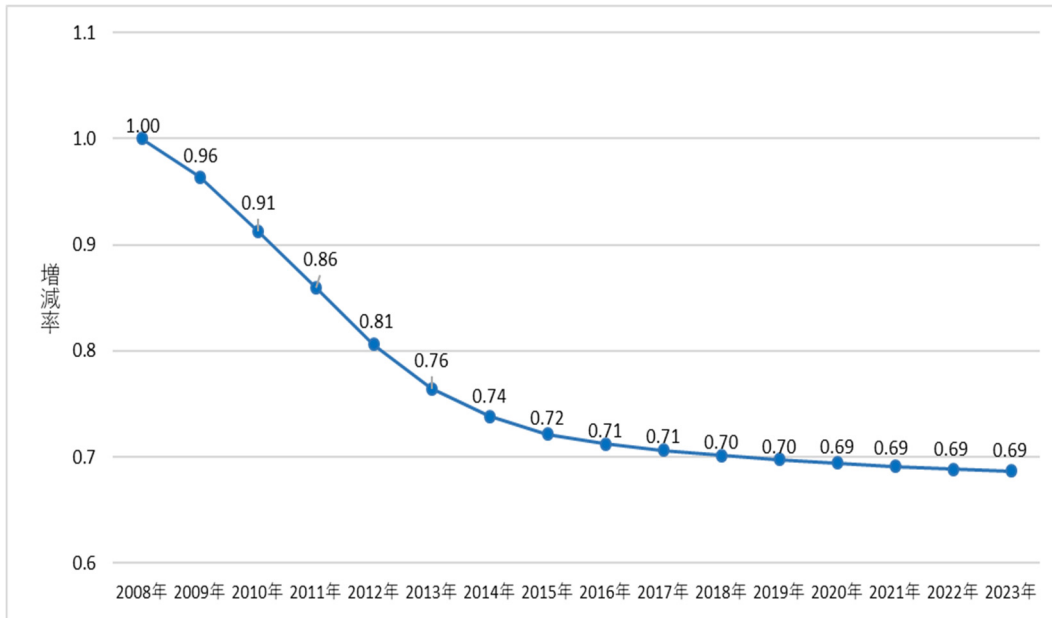
出典：石岡市都市計画マスタープラン

(5) 財政

1) 地価の推移

2008（平成20）年から2023（令和5）年において、同一地点での公表データがある住宅地の公示地価の市平均の推移をみると、31%下落しています。

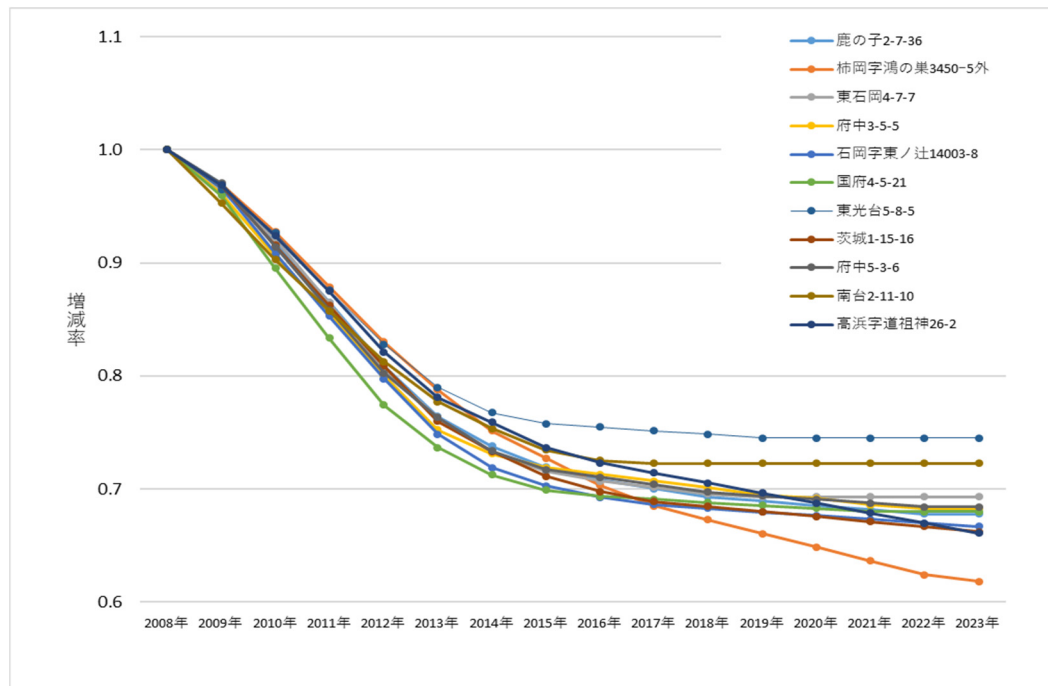
地点別の公示地価の推移をみても、全ての地点において、地価の下落がみられます。



図：公示地価の推移（石岡市平均）

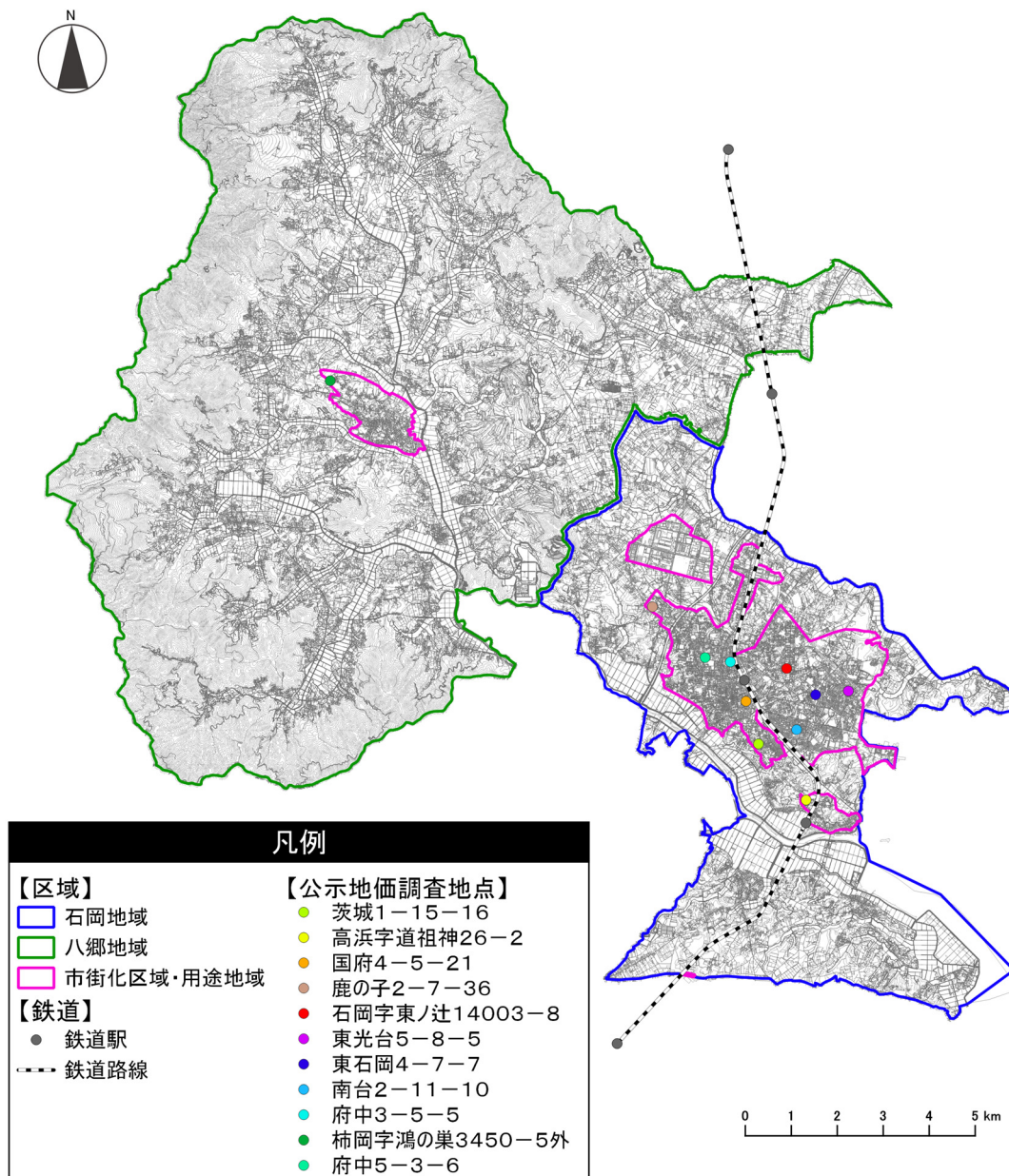
出典：国土交通省 HP

※2008 (H20) 年から 2023 (R3) 年まで同地点の公表データがあるもののうち、住宅地に該当する土地のみを集計し平均を算出



図：公示地価の推移（地点別）

出典：国土交通省 HP



図：公示地価調査地点位置図

出典：国土数値情報

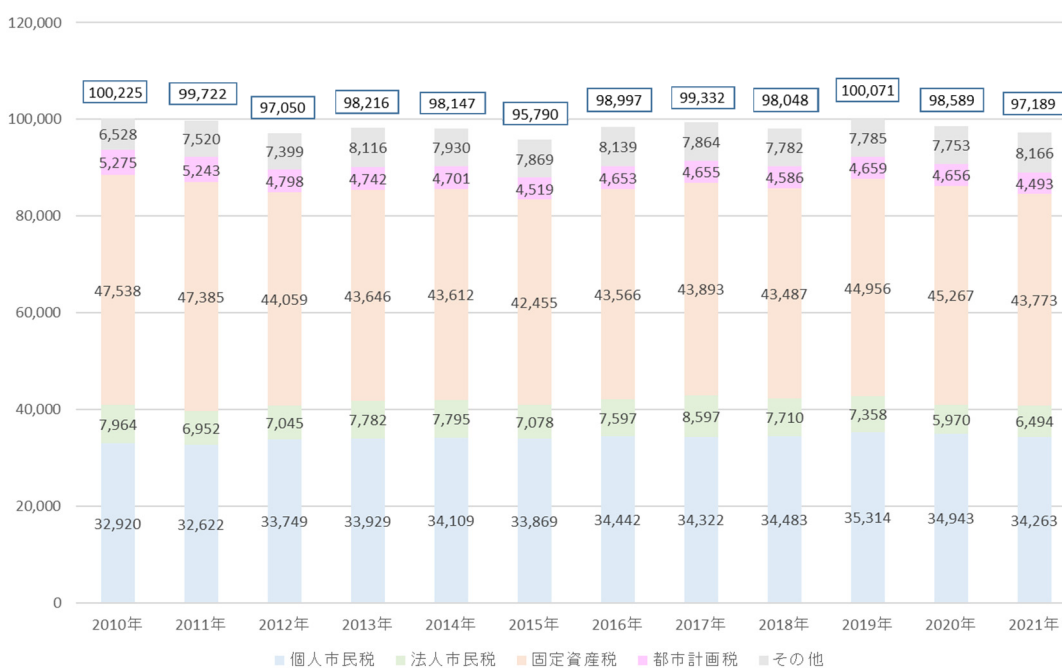
2) 固定資産税・都市計画税収の状況

市税収入額をみると、2010（平成22）年は100.2億円、直近の2021（令和3）年は97.1億円となっており、年度ごとに多少の増減がみられるものの、ほぼ横ばいとなっています。

税目別の内訳でみると、固定資産税の占める割合が最も多くなっていますが、2010（平成22）年の47.5億円から、2021（令和3）年には43.7億円と減少しています。また、個人市民税は2010（平成22）年には32.9億円でしたが、2021（令和3）年には34.2億円と増加がみられます。

都市計画税は2010（平成22）年には5.2億円でしたが、2021（令和3）年には4.4億円と減少しています。

[十万円]



図：市税収入額と税目別収入額の推移

出典：総務省HP

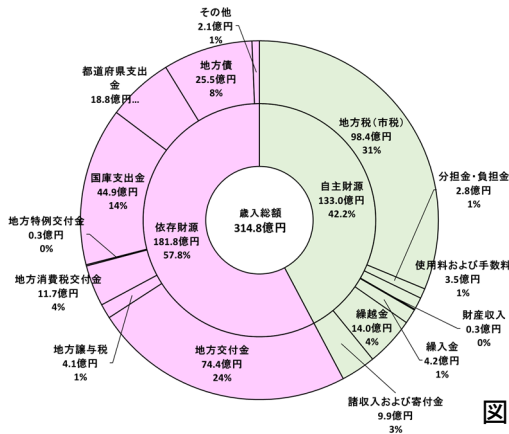
3) 歳入・歳出の推移

歳入総額は、2016（平成28）年には314.8億円、直近の2021（令和3）年には347.9億円と33.1億円増加しています。また、2016（平成28）年と2021（令和3）年の歳入内訳をみると、市税や財産収入などの自主財源が6.7億円減少しており、自主財源比率は5.9%減少しています。依存財源は、2016（平成28）年には181.8億円から2021（令和3）年には221.6億円と39.8億円増加しています。国庫支出金は2016（平成28）年には44.9億円、2021（令和3）年には74.8億円と増加しており、歳入総額と比較した割合も14%から22%に増加しています。

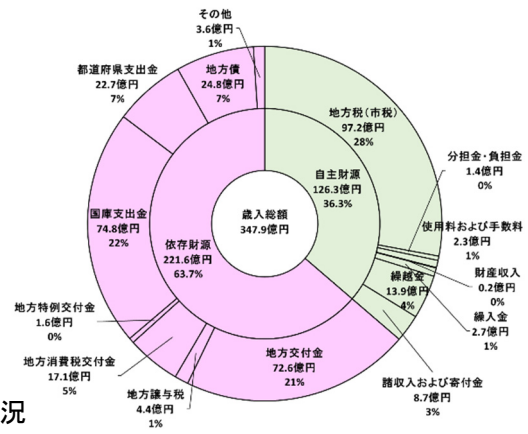
歳出総額は2016（平成28）年には297.3億円、2021（令和3）年には328.2億円と30.9億円増加しています。目的別歳出をみると、2021（令和3）年には民生費と土木費が歳出総額の過半数を占めており、民生費が大幅に増加しています。民生費は2016（平成28）年には109.3億円、2021（令和3）年には136.9億円と27.6億円増加しており、歳出総額に対する割合も4.9%増加しています。また、土木費は、2016（平成28）年には42.6億円、2021（令和3）年には35.7億円と6.9億円減少しており、歳出総額に対する割合も、3.4%減少しています。

性質別歳出をみると、2016（平成28）年には義務的経費と投資的経費が全体の60.4%を占めています。義務的経費の扶助費が2016（平成28）年には67.3億円、2021（令和3）年には88.3億円と大幅に増加しています。また、投資的経費は2016（平成28）年には36.6億円、2021（令和3）年には32.2億円と4.4億円減少しており、歳出総額に対する割合も2.5%減少しています。

2016（平成28）年

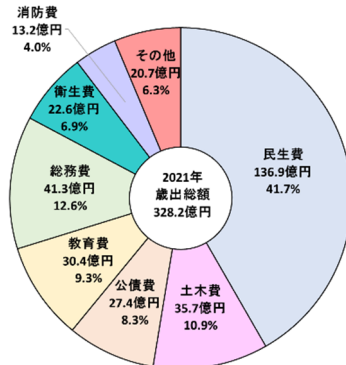
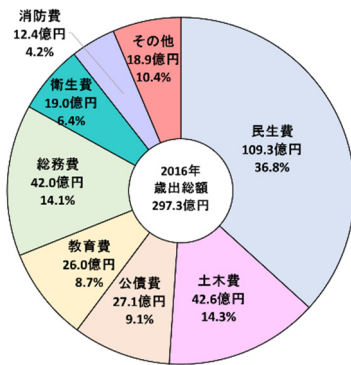


2021（令和3）年



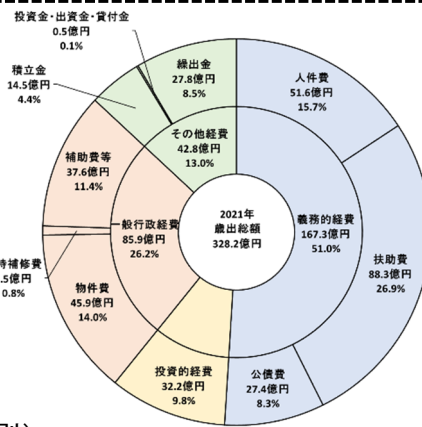
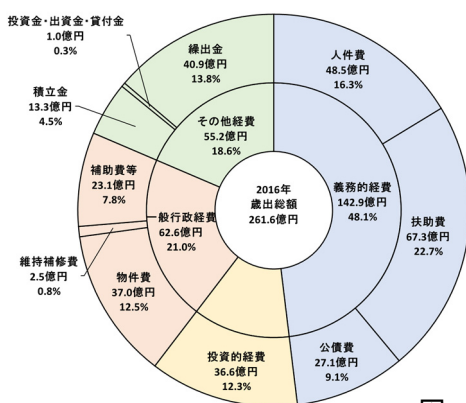
図：歳入状況

「自主財源の推移」 42.2% (133.0 億円) ⇒ 36.3% (126.3 億円)
5.9%減少 (6.7 億円減少)



図：歳出状況（目的別）

「土木費の推移」 14.3% (42.6 億円) ⇒ 10.9% (35.7 億円)
3.4%減少 (6.9 億円減少)



図：歳出状況（性質別）

「扶助費の推移」 22.7% (67.3 億円) ⇒ 26.9% (88.3 億円)
4.2%増加 (21.0 億円増加)

出典：総務省 HP